

「ミュージック・エア」
番組審議委員会(書面開催)報告書

1. 審議対象番組

- ① 「ジョン・レノン：最期の1日」(初回放送 2019 年 12 月 8 日／日本初放送)
- ② 「セッションの巨人～STUDIO JAMS～#53 出演：リーランド・スカラー他」
(初回放送 2020 年 2 月 10 日／日本初放送)

2. 意見聴取期間

2020 年 7 月 21 日～7 月 31 日(追加意見受付：8 月 5 日～8 月 7 日)

3. 意見聴取方法

WEB 上に対象番組動画をアップロード、ストリーミング形式で映像をご覧いただき、メールで
ご意見を聴取。

4. 意見聴取委員(敬称略)

番組審議委員長 齋藤 純一(株式会社インプレスホールディングス 社長室 室長)
番組審議委員 五十嵐 弘之(株式会社ドリーミュージック 取締役)
番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)
番組審議委員 佐藤 毅(ゼフロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)
番組審議委員 田中 良典(一般財団法人ヤマハ音楽振興会 教育指導統括部 普及企画部
企画担当部長)
番組審議委員 松山 梢(映画ライター)
番組審議委員 望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 知的財産戦略グループ
本部長)

5. 委員の意見

① 「ジョン・レノン：最期の1日」

- ◆音楽専門チャンネルで、ドキュメンタリー番組を流すということに関して反対はしないし、賛成したい。ただ、今回の番組の出来は今一つのような気がした。人気、話題性があるジョン・レノンの最期の日を描いたドキュメンタリー番組と聞くと、かなり期待が膨らむが、実際は最期の一日とは関係ないシド・グリフィンの話が多く、期待外れ。もう少し中身の良い番組を選んだほうが良かったのではないかと。これに懲りずに、新しい切り口で番組選びを進めてほしい。
- ◆特にジョン・レノンファンということではないが個人的には興味深く拝見いたしました。ジョン・レノン命日特集に放送されたとのことですので、良い番組だったかと思います。
(内容的にはジョン・レノンファン以外に訴求するには難しい作品かと思います)

オープニングがどんな番組かわかりにくい作りになっていたもので、放送の頭で何かアイキャッチなるものが付けられればわかりやすくて良いかと思いました。（前の番組をご覧になっていた人がチャンネルを変えるのを防ぐため）

内容的にはジョンがいかにリーダーとしてビートルズを仕切っていたかを、オノ・ヨーコがいかに影響力を持ってジョンの人生を変えたかという内容が興味深かった。（ヨーコがいなければ、ジョンの政治活動もなければ、イマジンも存在せず、ひいては生きていた可能性も）

◆アーティスト（ジョン・レノン）の人間像に迫るものと、ミュージシャンの職人的技術を露見するもの。両方とも音楽ファンにはたまらないと思います。

◆ジョン・レノンの事件を扱った番組は数見ましたが、犯人のチャップマンに重点を置いた力作で改めてジョンの残したものの大きさと、喪失感に大きく襲われるドキュメントでした。

しかし、視聴後は、ただただ救われない思いが残るばかりで、あれから数十年、僕らは何を学び、何を変えることが出来たのか。そして、これから何をすることが出来るのか。

あの事件から、未来に繋げるメッセージを込めたドキュメントにも今後期待したく思います。

◆特に熱心なファンではないけれど、ビートルズものはなんとなくダラダラ最後まで見てしまいます。湯川れい子さんだったと思うけれど、彼らについて「生物学的魅力」と評していて、メンバーそれぞれのキャラクター設定や行動等まさに他に類を見ないアイドルグループだと思います。

こうした稀有なグループの限りある音源やフッターを切り口を変えて更新していくのは、どこかで見たことがあるような感じがしたとしてもまだまだ価値があることですし、求める者も多くいると思います。

◆インタビューで構成された音楽もののドキュメンタリーは数多くありますが、ジョン・レノンが亡くなった12月8日の行動を主軸にして語られると同時に、バンド結成時代の秘話からビートルズの人気ぶり、政治活動家としての世間の反応など、キャリアの重要なポイントをコンパクトに、完結に語られている点がとてもわかりやすく、魅力的なドキュメンタリーだと思いました。

知り尽くしていると思っていた有名な出来事でも、構成やエピソードの抽出の仕方、視点によっていくらかでも見ごたえのあるコンテンツになると実感。できれば没後40年となる今年の命日も再放送してほしいです……。

■弊社からのコメント

「ジョン・レノン：最期の1日」に関して、様々なご意見ありがとうございます。

ミュージック・エアでは、日本に多くのファンがいるジョン・レノンの毎年命日に合わせて番組を放送するために、ジョン・レノンまたビートルズ関連の様々な番組を調達しています。

齋藤委員長からのご意見に関してですが、この番組のように当事者ではない第三者が解説するドキュメンタリーは賛否両論あると思いますが、今回の厳しいご意見を真摯に受け止め、今後

の番組調達の参考にしていきたいと思います。

また佐藤委員からのオープニングのアイキャッチのご意見は非常に参考になりました。確かにこの番組の唐突な始まり方は、前の番組からの継続視聴者は EPG を見ない限り何の番組が始まったのか分かりにくいオープニングと思います。これを機にこの番組と同じような始まり方をする他の番組も含めオープニングの工夫を検討したいと思います。

また松山委員からのご意見にありました今年の没後 40 周年の命日に向けても編成を検討していきたいと思います。

② 「セッションの巨人〜STUDIO JAMS〜#53 出演：リーランド・スカラー他」

◆この番組は、現在ミュージック・エアで毎日のように放送されている一流ミュージシャンたちの楽器演奏テクニックとセンスが光る好番組。

レコーディング前の打ち合わせで、曲決め、メロをちょっと、キーと順番を決めたらスタート、そんなジャム・セッションを見られる、とても興味深い番組だ。

今回のセッションは、目立たないがリーランド・スカラーのベースが見もの（聞きもの）、キーボードのデヴィッド・ガーフィールドが皆に指示だししているが、このセッションをきちんと支えているのがリーランド・スカラーのベース、いい味を出していた。ほかの放送もぜひ見たくなるような良い企画だと思う。

◆知る人ぞ知るといったメンバーでの、有名な曲を聴きやすいアドリブでのセッションでした。

ロック畑のリーランド・スカラー、スムーズジャズ畑のナジーなので肩の力の抜けた演で、聴きやすさがある分、ジャズファン向けではないのかな、と思いました。

企画、コンセプトが非常に良いと思います。他の#のセッションがどのようなメンツでどんな曲をやっているのかがとても気になりました。（自分の好きなミュージシャン、よく知っているミュージシャンの回をみたい）

昔のサンボーンの「ナイト・ミュージック」のように、有名ホストが1人いると固定ファンが付きやすいかなと感じました。

◆しゃべりが極端に少なく、音楽の魅力を（映像とともに）十分に伝えていると感じました。このような環境でのセッションが（コロナ禍のせいで）できなくなっていることは寂しい限りです。

両作品ともコロナ禍以前の放送のようですが、このコロナ禍で多くの音楽好きが自宅に長くいるようになってから、試聴世帯数や番組への反響など、何か変化あったのか気になります。

この両番組も、再放送されたようでしたら、コロナ禍前後での反応の違いなどあったのでしょうか。

◆見てるうちに心と身体が躍動するような良質の番組でした。参加ミュージシャンの選定、組み

合わせ等で様々なバリエーションを楽しめそうで他の回も見たい想いに駆られます。

さらに突き詰めていけば、セッションの特徴であるライブ性を前面に出したりセッションの場をスタジオではなく、街にしていくなような展開もありそうで今後に期待したいと思います。

◆「小さな場所」、「よく見て聴く」....。バンドのセッションを見るのは、実は技術の優劣にかかわらず楽しいものです。それぞれが経験してきた音楽に対する考え方が場でぶつかり、逸脱やミスを通して新しい展開を生んだりするのを見るのは本当に楽しい。予め定められた楽曲の完成度を垂直に高めていく方法とは異った贅沢です。

そういう意味で、この番組をシリーズとして編成しているのは素晴らしいと思います。

◆セッション・ミュージシャンたちのコラボは、日本ではなかなか観られない通な番組。ミュージック・エアらしいセレクトだと思いました。

ステージに引っ張り出すのではなく、あくまでスタジオで撮影するというコンセプトも、ミュージシャンたちの普段のリラックスした表情を垣間ながら、セッションという適度な緊張感を共有しているようで魅力的でした。

そしてやはり、「ハリー・ポッター」のダンブルドア校長のようなベシストのリーランド・スカラービジュアルはインパクト大。知らなかったのでファンになってしまいました。

「何でもやってみるべきだ。若いうちは機会があれば挑戦するべき。新しい人と演奏するチャンス逃すな」というメッセージも、ジャンル関係なく、広く様々な人に響く金言だと思います。

■弊社からのコメント

「セッションの巨人〜STUDIO JAMS〜#53 出演：リーランド・スカラー他」に関しては、多くの好意的なご意見ありがとうございます。

超一流のスタジオ・ミュージシャンが多数出演するシリーズ番組「セッションの巨人〜STUDIO JAMS〜」は、良質な音楽を放送しているミュージック・エアならではの音楽番組として2017年12月よりスタートしました。

他の回では、デレク・トラックス、ベラ・フレック、パット・マルティーノ、イエロージャケッツ、スタンリー・ジョーダン、ラリー・カールトン、テレンス・ブランチャード、ジョー・ボナマッサ、アントン・フィグ、アルトゥーロ・サンドヴァル、チャック・ローブ、クリス・シーリ、ドミニク・ミラー、ウィル・カルホーン、チャーリー・マッスルホワイト、チャーリー・ワッツ、ボビー・ライル、ジェラルド・アルブライト、リチャード・エリオット、カーク・ウェイラム、ヴィクター・ベイリー、ジェフ・バーリン、マイケル・センベロ、ピーター・ホワイト、フィリップ・セス、ジミー・ハスリップ、ディーン・ブラウン、ネイザン・イーストなど有名アーティストが出演しています。

今後もミュージック・エアらしい良質な内容の番組を発掘していきたいと思っています。

■ご質問への回答

両番組についてのコロナ禍前後での反応の違いですが、両番組以外の他の番組も同様に個々の番組への反応はコロナ禍前後で大きな変化はありませんが、4月～5月のチャンネル全体の視聴者の視聴時間、そして契約者数はコロナ禍前に比べて増えました。

- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：
今回の審議会に出された意見については、意見聴取終了後の令和2年8月7日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：
令和2年9月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上